

# エピソード37

登校をしぶる子どもたちの保護者  
から相談がありました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が  
あります。  
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校で、担任をしていたときの  
経験をお聞きします。

私が、高学年で担任したさくらさんは、  
5年生の終わりくらいから学校への登校渋り  
が始まり、私は気になっていました。

さくらさんはお父さんと二人暮らしでした。  
私は「困ったことがあったら、いつでも  
話してね」と日頃から言っていました。





さくらさんに、どんなことが起きましたか。

6年生になって、お父さんから私に「さくらが昼夜逆転している、学校に行きたがらない。」と相談がありました。

お父さんは高齢で病気もありました。私はできるだけ連絡を取り合い、できることはしていきたい、とお父さんに伝えました。





その後、どんなことがありましたか。

ある日、お父さんが学校に来て「さくらからこんなに長いメールが来た。」とメールを見せてくれました。

メールには、学校に行きたくない理由が二つ書いてありました。





メールの詳しい内容を教えてください。

一つ目は学校のこと、友だちが転校してしまったことと、先生が表面的にしか心配してくれない、と書いてありました。

もう一つは家族の問題で、とても大きな問題なので、簡単には解決できそうもないことが書いてありました。





そのメールを読んで、  
先生はどうしたのですか。

お父さん、管理職、学年の先生、養護教諭、  
特別支援コーディネーター、担任で話し  
合いを持ち、気持ち下がっているさくら  
さんに、何ができるかを話し合いました。

話し合いを持ったことで、学校と  
保護者が連携できたと思いました。







話し合いが終わってから、  
どんなことがありましたか。

お父さんが帰りがけに「さくらが私の携帯  
を使って、返してくれない。私にかかって  
きた電話も切ってしまう。」と言いました。

私は「お父さんが困っている気持ちを、  
そのまま素直に、さくらさんに伝えては  
どうですか。」と話しました。





お父さんはどんな反応でしたか。

お父さんは、自分の気持ちを素直に伝えることは考えていなかったようでした。目を見開き、私の話を真剣に聞いてくれました。

お父さんの姿を見て、表面的にしか心配していないと言われた私も、さくらさんに素直に気持ちを伝えたいと思いました。







話し合いが終わった後、参加した先生方から、何か話がありましたか。

コーディネーターの先生が「お父さんがメールを見せてくれたのも、電話のことを相談してくれたのも、先生がコンタクトを切らさずにとっていたので、信頼していたんだと思うよ。」とってくれました。

私は、さくらさんやお父さんの気持ちを大切に、支援していこうと思いました。





## なみちゃんの一言

- 保護者との連絡を継続していくことは、信頼につながるのですね。いざという時、頼りにしてもらえる教師になりたいものです。
- 子どもは、物事の本質を、子どもなりに見抜いているものです。
- 理解し合うためには、子どもや保護者との対話が大切なのですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)